

令和 8 年度第 1 回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時

令和 8 年（2026 年）6 月 12 日（金）14 時 00 分～15 時 25 分

2 開催場所

広島市役所本庁舎 1 4 階第 7 会議室

3 出席者

出席委員（7 名）

角倉 英明、吉田 幸弘、今川 朱美、小玉 志帆、前田 圭介、中村 圭、
重藤 吉久

4 議事

浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（報告）

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者 6 名

報道関係傍聴者 1 社

7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、広島市都市デザインアドバイザー会議開催要綱、広島市都市デザインアドバイザー会議運営規程、議事資料

8 会議要旨

(1) 議事 1 座長及び副座長の選任

出席者の推薦により、座長に角倉委員、副座長に吉田委員が選任された。

(2) 議事 2 浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（報告）

これまでの検討での委員からの意見等を踏まえた最終的な設計内容について報告を行った。

配慮、注意してほしい事項については次のとおりである。

ア 雨垂れ対策等について

美観を保つため、なるべく軒先に雨垂れが生じにくいような工夫をするとともに、ガラスカーテンウォールの防水性の確保についても留意してほしい。

イ ルーバーについて

今後、ルーバーの形状や角度等を調整する中で、時刻や季節等にも考慮しながら、光と影を上手くコントロールして、魅力的な空間となるようデザインしてほしい。

ウ 外装仕上げについて

ルーバー等に施す保護処理（リン酸処理）について、発色具合等も考慮しながら、美しい仕上がりとなるよう配慮してほしい。

エ 植栽について

大きく育つ植栽がある場合は、その根によって将来的に舗装面を傷めてしまわないよう、根が広がりすぎないような対策を講じるなどの配慮をしてほしい。

オ 1階 Link space（階段ベンチ）について

外部との調和を意識して温かみのある雰囲気仕上げるなどにより、スペースの狭さを和らげるような配慮ができるとよい。

カ 利用者へのヒアリングについて

こどもの施設利用を広げるに当たって、周辺の小中学校の生徒にヒアリングを行うなどし、こどもも快適に利用ができるよう配慮してもらうとなお良い。

【会議概要】

○地井都市デザイン担当課長

（開会挨拶、配布資料確認、出席者紹介及び議事説明、座長及び副座長の選任）

○角倉座長

それでは、本日の議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（報告）」の説明をお願いします。

○三宅施設整備担当課長

（議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（報告）」の説明）

○角倉座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○前田委員

1つ目は、縮景園の近くのこの敷地で、なぜ水平の屋根のスカイラインを造っているのか。縮景園側の中央の視点場から見たときに、マンションも非常に多いと思うがその中に、この建築が17メートルぐらいであるが、どのような景観として、どのように見えるのか。

2つ目は、議事資料7ページ目の2階平面図の市民活動について、市民活動が外ににじみ出るような活動の方がよいのではないかと思った。エキスパンドメタルのルーバーによって、活動が外ににじみ出てくるのかどうかについて、パースでは何となく感じられるが、本当にそのように見えるのか。9ページ目のルーバー（イメージ図）によると、エキスパンドメタルの網で覆っただけだが、実際は骨組や下地が入ってくるため、GLレベルで歩いている人から、2階のこのペリメーターゾーンの市民活動との相関関係がうまく取れるのか。

3つ目は、2階のガラス面とルーバーとの隙間について、ガラス面の清掃をどのように考えているのかを伺いたい。隙間に入れず、清掃ができない状態でなければよいと思った。

4つ目は、エキスパンドメタルにリン酸処理を採用しているが、化学反応での表情が豊かということは分かるが、工場によってリン酸の発色具合に差があり、ある種汚いような化学反応となる場合があるため、どのように考えているのかを伺いたい。

5つ目は、9ページ目の北側前景（イメージ図）に、植栽が2、3階部分までかかっているようなパースがあるが、これは高木を入れるのか、植栽を植えるのかを伺いたい。それに合わせて今回、割栗石を入れているが、少し何か尖ったような石だと思う。縮景園に近い今回の計画地で、どのような考えで割栗石を選択されているのか。

6つ目は、今回、日本建築的な軒が特徴的だと思うが、勾配的に雨水が軒先へ垂れ流しになるのか、又は内側に勾配を取ろうとしているのか。シャープな美しいデザインが経年の中でどのように変わっていくのか、雨垂れなどの清掃をどのように考えているのかを伺いたい。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

まず1つ目の、縮景園の横でなぜこの屋根形態なのかについて、基本的にはプロポーザルで提案したものから大きく変更はしていないが、縮景園の横で、そのまま日本的な普通の屋根の建築ということではなく、形態を単純化することにより、庇とか中間領域を造っ

ていくことで、和の様子を出している。縮景園だけではなく、周りの街との関連や、親和性を意識しながら計画している。

2つ目の、ルーバー越しに市民活動が外ににじみ出るのかについて、まずルーバーを設置している理由について、今回、縮景園に対して開いていく、街に開いていくということを考えているため、日射制御が重要になってくる。基本的には水平の軒を深く出すことで南側は対応できるが、2階は収蔵庫があり階高が高くなっているため、底だけでは日射制御できない。そのような環境に配慮するため、ルーバーの設置を提案した。その中で、少しでも中の活動が見えるようにエキスパンドメタルという素材を採用している。雁行で重ね合わせることで、同じ面で透けていくというよりは、互い違いに見えることでの視界を意識している。一応モデル等で検証しており、活動が見えるように、特に中にいる人たちの服装の色などから人の気配みたいなものを感じられるという効果を狙って、エキスパンドメタルを採用している。エキスパンドメタルのイメージ図のような見え方にならないのではないかという御指摘については、今回エキスパンドメタルは、重ねているところの裏にフラットバーを立てて、そこで留めるため、重ねているところ以外では、下地は見えてこないような形にして、なるべく透過性を上げようと考えている。

3つ目の、ルーバーの奥のガラス面の清掃について、ルーバーとガラスとの間には人が通れるような空間を設けている。

4つ目の、リン酸処理について、施工する工場によっては、色々な不具合があるということは認識している。そのため、色が何色か選べたり、仕上げの方法、リン酸槽に漬けて引き出すときの角度によっても差が出てくるため、そのようなところまでコントロールできる工場に施工を依頼するよう、図面に表記するなどの方法を検討したいと考えている。

5つ目の、北側のパースの植栽について、北側の植栽は今の景観を極力残すということで、今の植栽を残した形で、建物モデルに入れ込んで、どう見えるかを検証している。縮景園からの景観が、当然今と変わってくるが、建物が自己主張して、縮景園の景観を壊すことがないことを確認して、建物の高さ、色、形態を決めている。割栗石については、基本的にはあまり色がないもので、なるべく緑などの背景となるような自然素材というものを選んでいく中で、割栗石を設定した。

6つ目の、3階庇の水の流れについて、御指摘のように、全て外に流してしまうと下を歩いている人に水が当たるし、雨垂れが発生するため、基本的には内側に流すようにしている。先端の一部は少し外に流すが、基本的には内側に流して、外樋がガラス面の外にあり、外で排水する。先端から雨水がだらだら垂れることのない雨水計画としている。

○前田委員

軒が少しでも外にあると、ほこりが付着しやすく、雨水によって外側へ流されることで軒先の汚れが目立ちやすくなる。このデザインも長い時間の中で、きれいな軒先が残るのかなと思ったりするので、少しでも工夫をしていただければよいと思う。

○今川委員

清掃のためにルーバーとガラスの間は人が通れるような空間を設けているということだが、雨水により張り付き乾燥して固着したほこりをどのように取るのか。高圧洗浄機で洗うイメージなのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

内側の清掃は、先ほど申し上げたとおりである。外側からの清掃については、二階の高さのため、下から長い清掃用具で行うことを考えている。特殊な高所作業車のようなものを使わなくてもよいと思っている。あとは、メンテナンスの頻度もあると思うため、竣工後のメンテナンスの仕方は運営の中で御提案し、処理してもらおうと考えている。

○今川委員

樋は1本しか外に出てないということだが、木がたくさんあるところでは、落ち葉等で樋の詰まりを起こさないのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

1本ではなく、均等に入れている。

○今川委員

内側にあるとおっしゃっていたが。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

内樋ではなく、外樋で、軒先からは内側に流すということである。それを均等に分散配置しており、雨水計算上はそれが1本でも詰まるとあふれてしまうということではなく、当然落ち葉等で詰まる可能性はあるため、メンテナンスはしていかないとはいけないが、ある程度の余力を持ちながら、排水能力を確保するための予備の樋を設置している。

○今川委員

割栗石を具体的にどこに使うのか、教えてほしい。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

具体的には、植栽と人が歩くところの間に、少し緩衝帯として使用することになっている。

○今川委員

8ページ目の素材で、シラカシの写真を入れているが、どこに植えるのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

色々なところに植樹することを考えている。北側は既存のものになるが、南側は、今後解体して植栽がない状態となるため、ここに植樹していくということを考えている。

○今川委員

大きくなる樹木に関しては、根が張らないようにする工夫はされているのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

倒れないように、ある程度工夫や調整はしていきたいと思っている。

○今川委員

今、広島市で街路樹が路面を傷めてしまい、伐採している。これから植樹するものについては、かなり気をつけないといけないと思うため、御配慮いただきたい。

○重藤委員

一市民として感じたことを申し上げると、最初、浅野文庫ということで、収蔵庫のようなイメージを持っていたが、いろいろな文学資料館などもあるということで、少し認識が違っていたが、建物のデザインは周辺の環境に調和して、非常に素晴らしいと感じた。また、守りながら開くというコンセプトもよく表現されていると感じた。

今後の話になるかもしれないが、前面道路が文化の道ということで、おそらく50年ぐらい前に設定されたものだと思うが、ここ最近、非常に文化の道が取り上げられるようになってきているため、ぜひこの建物の整備を通じて、本来の目的だけでなく、回遊性のある都心づくりに貢献できるようにしていただければと思う。今回の説明の中でも、一部そのような話が紹介されていたが、ぜひそういった面を期待している。

○小玉委員

建物は経年劣化のときに、雨垂れが一番汚い。そのため、先端が細くとてもかっこいいふうにはなっているが、内側に水勾配を取るのであれば、カーテンウォールの防水的な納まりを注意してほしい。まだ実施設計の段階なのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

実施設計は終了している。

○小玉委員

詳細がないため分からないが、堅樋もかっこいいものにしていただきたい。

また、1階のLink spaceの階段でステージやベンチになるところについて、通路と動線が重なっていることから、スペースが狭いと思うため、温かみがあるような雰囲気仕上げると、外との調和も取れると思う。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

実際に使われる司書の方や学芸員の方とは、ワークショップのような形で何かしたいとか、どのように使いたいというところを協議しながら設計してきているが、また改めて使い方を協議しながら進めていく。

○吉田委員

2階のエキスパンドメタルのルーバーの部分は、この建築の外観上の特徴の一つだと思うが、先ほど陰影という話をしていたが、前回のフラット案から今回のようにジグザグに変えた理由をもう一度お聞きしたい。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

フラットとジグザグでは、底に対して面の差が出てくるので、そういった意味で影になる部分というのが変わってくるということで、陰影の差というのは、フラットよりはジグザグの方が出てくると思う。

また、フラットのままで大きな面になってしまうが、雁行することで少し分節化され、スケール感を抑えることができると考えている。

○吉田委員

エキスパンドメタルを使用することはコンセプトにも合っており、非常に良いと思う。前回の横ルーバーのフラット案というのは、フラットバーを積んでいて、エキスパンドメタルではなかったはず。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

そのとおりである。

○吉田委員

くの字型のエキスパンドメタルでの、フラット案は検討されたのか。その結果、やはり陰影を出すためにジグザグにしたのか。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

検討している。エキスパンドメタルは、鋼材を伸ばしているものであるため、ある程度強度を出していくために、くの字にしている。そのような立体的なものをルーバーにしていくときに、どのような積み方、設置の仕方がよいかを検討する中で、フラットよりも、雁行の方が効率がよかったということがある。また、先ほどのような効果もあるということで、フラットとジグザグの両方検討した結果、ジグザグで設置する案を採用した。

○今川委員

エキスパンドメタルを真っすぐにしてしまうと、虫かごみたいになってしまう。折り曲がっているものを見て、こちらの方が正解だと個人的に思った。

6ページ目の設計コンセプトのところで、利用者を広げようと、子供も一般利用者も知ってもらいたいと書いているが、立地から小学校や女学院があるため、このようなところに来られる小学生や女学院生の方たちにもヒアリングをして、その方たちも快適に使えるようにしてもらえると、なお良いと思う。

○設計業務受託者（株式会社久米設計 野原氏）

その辺りは市の方とも相談しながら、どのような手法やタイミングがよいかということを検討していきたいと思っている。

○中村委員

ルーバーについて、特に南側正面の2階部分は市民活動をされるところであるが、屋にはルーバー越しに日がさんさんと当たり、ルーバーがある程度光を遮るが、透過する光もある。後ろにガラスがあるため、反射も複雑になるのかなと思う。また、2階の床の方に

エキスパンドメタルのひし形の影がどのように落ちていくのかということについても、今は割とシンプルにくの字型の案になっているが、今からルーバーの形状やピッチを検討していくとのことだったので、本当にくの字型がいいのかや角度がどうなのかなど、これから詳細に検討していくものだと思う。ルーバーの角度や時刻、季節などによって、その影もかなり複雑に変化するため、うまく光と影のデザインとしてコントロールできれば、すごく素敵な2階の空間になると思った。

○角倉座長

全体をまとめると、景観づくりという観点では、屋根形状の話、ルーバーの話、リン酸処理を施すことによる製品のムラの話、割栗石を含めた植栽の話、美観の観点から雨垂れ問題をどのように処理するのかという話が出たと思う。ほかにも景観づくりと関わらないようなこととしては、清掃の通路の話が出たと思う。

それでは、本日の議事については以上である。